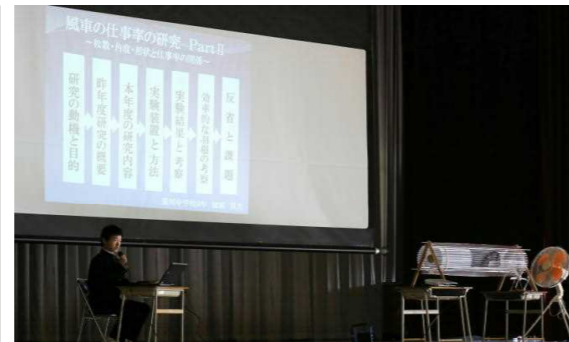


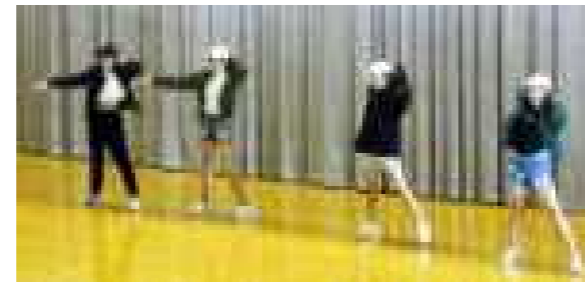
☆青雲祭アラカルト【10月22日(土)】

今年の青雲祭は、「さあ！奏でろ！響かせろ！in2016～心が叫びたがっているんだ～」のローガンのもと、より良い文化の祭典を目指し、生徒の創意や工夫を加えて行いました。午前中のステージ発表では、科学研究発表や地域の方々による和楽器演奏を聴く会など新しい企画を導入しました。特に今年初めての生徒会主催による「青フェス」が行われ、歌やダンス・演奏などが催されました。来年度はもっと盛り上がるような気がします。



科学研究発表 3年1組 徳富 貫大
「風車の仕事率の研究 Part II」

○青フェス（生徒による演奏・ダンス）



JAMJAM「おどるポンポコリン」と「ダディー」の2曲 小池 心・渡邊 史奈・川村 知穂・山田 桜子



荒中のアイドル
「Summer Madness」
会田康成・長谷部拓海・渡邊颯人・山本翔太・阿部海斗・緒形未勇・遠山瑠依

モノクロ「前前世」
金子結奈・磯部真央

#AIMA
「KANA - BOON」

菅原愛・中束彩乃
鈴木真彩・渡邊彩花



喜法会による和楽器演奏
「春の海・ルパン三世・校歌等」



七五三



吹奏楽部による演奏「ルパン三世のテーマ・Sing Sing Sing・残酷な天使のテーゼ」

指揮者賞



3-2合唱
井上 直紀

3学年合唱
村瀬 和葉



○全校合唱 「虹」 指揮者：阿部 海斗 伴奏者：川村 知穂

☆平和学習【10月27日(木)5・6限】

教育委員会主催による「平和学習講演会」が行われました。被爆者体験者である講師の本間文紀子さんは、10歳の時に広島で被爆されました。「私の被爆体験と命の尊さ」という演題で貴重なお話を聞く良い機会となりました。本間さんは、現在、村上市細工町在住で今年で82歳になられました。「みんな仲良く、一日一日を大切に生きてほしい」と切なる願いをみんなに訴えました。



◇「平和学習講演会」 生徒の感想

1年3組 上野 涼花

今回のお話を聞いて、戦争は悲しみしかないと思いました。私だったらまわりにたくさんの死体があったら怖くてきっと何日も眠れないと思います。

何回かおじいちゃんから戦争の話の話を聞いたり、「広島ぴかり」という原爆のお話の絵本を読んだことがあったけど、被爆を体験した人のお話を聴くのは初めてでした。

当日の人々がどういう状況だったのかなどを聞いて、今私はとても幸せなんだと思いました。友達とけんかしたり悩んだり、笑ったりできる時間がどれほど幸せかあらためて感じました。

これからもこの幸せな時間を大切にいきようと思いました。

☆皆さんに伝えたい話 (平和学習講演に因んで長崎へ行った時の印象的なお話です)

「焼き場の少年」

右の写真は、目にされた方も多かろうと思います。感動話というより、何とも切ない話です。

若きジョー・オダネル海兵隊軍曹(アメリカ空爆調査団・公式カメラマン)は、廃墟の長崎に入った。シャッターを切ったその数は数千コマにのぼる。彼が撮影した沢山の写真には、荒廃した戦後すぐの日本の姿が焼きついている。上の写真はその一枚です。

この写真を彼は終生リビングに飾っていた。少年が頭をたれた弟を背負って直立不動で立っている。少年は死んだ弟を茶毘(だび)に付すために順番を待っているのです。「もし私が少年に声をかけたら、少年は崩れ落ちてしまうだろう。彼は必死にこの悲しみに耐えていたのがわかった」と語る。

オダネル氏は、8月9日夜、脳出血のため米国テネシー州ナッシュビルの病院で亡くなりました。85歳でした。奇しくも8月9日は、長崎に原爆が投下された日である。

この写真へのオダネル氏本人のコメントがありましたので、引用させて頂きました。

佐世保から長崎に入った私は小高い丘の上から下を眺めていました。すると白いマスクをかけた男たちが目に入りました。男たちは60センチほどの深さにえぐった穴のそばで作業をしていました。荷車に山積みした死体を石灰の燃える穴の中に次々と入れていたのです。

10歳ぐらいの少年が歩いてくるのが目に留まりました。おんぶひもをたすきにかけて、幼子を背中に背負っています。弟や妹をおんぶしたまま、広場で遊んでいる子供たちの姿は当時の日本でよく目にする光景でした。



しかし、この少年の様子ははっきりと違ってきます。重大な目的を持ってこの焼き場にやってきたという強い意志が感じられました。しかも裸足です。

少年は焼き場のふちまで来ると、硬い表情で目を凝らして立ち尽くしています。背中の赤ん坊はぐっすり眠っているのか、首を後ろにのけぞらせたままです。少年は焼き場のふちに5分か10分も立っていたのでしょうか？

白いマスクの男たちがおもむろに近づき、背中の赤ん坊をゆっくりと葬るように、焼き場の熱い灰の上に横たえました。まず幼い肉体が火に溶けるシューという音がしました。それからまばゆい程の炎がさっと舞い立ちました。真っ赤な夕日のような炎は、直立不動の少年のまだあどけない頬を赤く照らしました。

その時です。炎を食い入るように見つめる少年の唇に血がにじんでいるのに気づいたのは。少年があまりキツくかみ締めているため、唇の血は流れることもなく、ただ少年の下唇に赤くにじんでいました。夕日のような炎が静まると、少年はくるりときびすを返し、沈黙のまま焼き場を去って行きました。



	荒川中 だより	青い雲	村上市立荒川中学校 平成28年度 第9号 平成28年11月11日発行 Tel. 0254-62-3251	
教育目標:「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」				
目指す学校像:「勢いとハートのある学校」(ハート=熱いハート、温かいハート、柔軟なハート)				

熱いハートと温かいハートで「感動」をもらった青雲祭

季節は約束通り巡り、冬の到来を告げる白鳥がお幕場の大池にたくさん集まってきました。先日はあられが降るなど、秋を楽しむ前に「冬がもうそこまで」という感じで、何か寂しく感じます。

10月22日(土)に行われた荒川中学校「青雲祭」には多くの保護者や地域の方々からお越しいただきありがとうございました。合唱コンクールがメインの青雲祭。素晴らしいハーモニー・歌声が響き、私にとってたくさんの感動をもらった一日でした。皆さんはいかがだったでしょうか？

ご来校いただいた保護者のアンケートでは、「年々、合唱のレベルが上がっていて、聴く側の私たちもとても楽しみにしています」と生徒の頑張りを讃えています。審査員でお招きした鷹雄先生も合唱の素晴らしい出来映えに感心しておられました。特に2年生男子の声量の素晴らしさを誉めていました。来年は、もっと素晴らしく成長することを楽しみにしているそうです。

「賢い人になろう!」「卑怯を憎む心を育てよう!」

【11/7(月)全校朝会の概要を紹介】

最近、学校生活で人の心を傷つける言動(賢さが足りない出来事)が数件あったので、「幸せになるためシリーズ」の第4話「賢い人になること」の「賢い人は理性的」についての話をしました。「理性的」とは「きまりを守れる・がまんでできる人」をいいます。人は誰もが良い心と悪い心の両面をもっているものです。自分の心をコントロールして悪い心をおさえている人が多いから、安心・安全で平和な世の中なのです。人間が、して楽しいことに「いじめる・威張る・群がる・差別する」があります。なぜ人はいじめるのか?人間社会においていじめのない世界はほぼありません。精神が幼い人にとっていじめは楽しく、面白いことなのです。いじめにあったらそれこそ賢く対応することが必要です。じっと我慢するのは相手の思うつぼ。いじめ返しは「その人と同じレベルの人間」SOSを親や先生・友達に出したりして解決に導くことや「いじめに絶対負けない」という強い人になることが大事です。

次に「卑怯を憎む心」について話しました。弱いものいじめ、大勢で1人をやっつける、男が女に手をあげるなどに対して、日本は武士道の精神が引き継がれ、卑怯なことを許さない姿勢が見られます。他に、生まれつきの障がいがあるとか、背が低いとか、美人・イケメンな顔でないとか、自分の責任ではなく、どうにもできないことをからかったり、笑いのものにしたりすることも「卑怯なこと」です。本能や感情に左右されず、冷静な言動をすることを心掛け、人の心を大切にできる賢い人になりましょう。

☆お知らせ

「学校預り金振替日について」

11月は11月25日(金)、12月は学期末のため12月12日(月)が振替日となります。11月分引き落とし後、すぐに12月分の引き落としとなりますので、引き落とし不能にならないように、ご協力をお願いします。

